

With

利用者と共に

職員と共に

地域と共に

高森荘からの情報発信 ウィズ

vol.30

2013.12/1

発行所 障害者支援施設 高森荘

〒399-3101 長野県下伊那郡高森町山吹4473-1
TEL.0265-35-6811 FAX.0265-35-6812
E-mail.takamorisoh@bj.wakwak.com

発行者 高森荘施設長 入野友宏



インフルエンザ学習会

ある日の高森荘

感染症対策委員会

10月22日に下伊那厚生病院、中山感染管理認定看護師を講師に招いてインフルエンザの学習会を行いました。自由参加の学習会でしたが、ほとんどの利用者さんが参加されました。メモを取ったり、質問される方もあり、マスク、手洗い方法についての説明を聴く真剣な顔、顔、顔。

外は、秋が深まり燃えるような紅葉です。高森荘も、利用者さん、職員が一体となって学習会に熱く燃えたひとときでした。インフルエンザが、世間でどんなに猛威をふるっても、必ず、私達は乗り越えられると感じたひとときでもありました。

リスクマネジメントについて

授産施設から、生活介護施設に移行し、2年が経とうとしています。

その間、利用者さんは、二つ二つ歳を重ね、年齢と比例するように筋力・体力の低下、障害の重度化が進んでいるように感じます。

これまで高森荘では、日中バリア作業を行い、休日になると近くのお店へ買い物に出掛ける方が多く、『リスクマネジメント』についてあまり馴染みが薄かったように感じます。

しかし、現在ではヒヤリハット報告の件数が徐々に増加。馴染みの薄かったリスクマネジメントという言葉は、安全に生



活する為に、施設全体で考えて行かなければならない、重要なキーワードになっていきます。

安全面を考えると、今までのように利用者さんの意見や行動を尊重した体制では今後どんどん事故ヒヤリハット件数は増加していくように感じます。

しかし、あまり管理的になりすぎると、人としての尊厳を奪ってしまい福祉サービスの基本理念の逆行にもつながります。どちらを優先するのが本当の利用者さんの為なのか。今大きな課題を抱えています。

長野県医薬品配置協議会様より 保健衛生物品の寄贈

昭和63年から続く長野県医薬品配置協議会様から障害者施設等への寄贈、本年度は当施設が寄贈対象施設のひとつとして、殺菌消毒剤や使い捨てマスクをいただきました。



貴会の皆さまの善意に心から感謝を申し上げます。

日帰り旅行

11月21日、通所

利用の参加希望者と日帰り旅行に行ってきた。

最近



日中でも冷え込む事が多いですが、この日は朝から快晴でした。気温もほど良く、絶好の旅行日和に恵まれました。

日帰りなので、遠方には行けませんでしたが、伊那市の『みはらしファーム』で昼食を取りました。

バイキング形式のお昼は御馳走がたくさんあり、ついつい食べ過ぎてしまいました。ロケーションも最高で、おいしく、楽しい時間が過ごせました。

昼食も終わり、1時間程周辺を見学、その後駒ヶ根の『かんでんばば』に寄り、お土産を買いました。皆さん、思い思いのお土産を購入できたようです。

短い時間の旅行でしたが、たくさん笑顔を見ることが出来、行って良かったと思える一日になりました。

利用者保護者交流会

「防ごう！障害者虐待」

12月1日利用者保護者交流会で、長野県障害者権利擁護センター障害者虐待防止推進員の勝山章(かつやまあきら)様を講師にお招きし、『障害者虐待防止法の理解と権利擁護』の講演をお聞きしました。

平成24年10月1日に障害者虐待防止法が施行されましたが、その詳しい内容の正確な理解・把握を出来る機会には、少なく、普段施設内で職員研修等する際には、どう



「茶話会」

利用者保護者交流会の後半では、ラジオ局飯田FM(i-STATION)で番組を担当されています、風越亭半生(かざこし)はんしょう氏にお話を頂きました。

内容の詳細は書ききれないので、省略させて頂きますが、虐待の原因の多くは、介護疲れ・人間関係・経済的問題等様々ですが、被害者だけでなく、加害者を含め地域ぐるみでのサポート(支援)が根本的解決や防止に繋がる事を学びました。

『「はるるかぶり」のひみつ』と題したお話では、下伊那地方で昔から使われている「はるるかぶり」の言葉の由来を教えてください、私もこの方言を使ってみたい気持ちになりました。



今年の夏祭りは8月8日(木)に行われました。

今回は、高森荘が開園して30周年を迎える年での開催ということもあり、実行委員を中心に職員と利用者さんが協力しながら計画を進めてきました。

交流会では、利用者さんと地域の子供たちが一緒に交流してもらいたいという思いから、夏の風物詩でもある風鈴を一人一人に作ってもらおうようにしました。

夏祭り

夏休みの工作でもおなじみですが、ペットボトルを半分に切り、底の部分を使用し、ペットボトルの周りにシールを貼るなどして飾り物をつけて、仕上げに水引に鈴と短冊を付けて願い事を書いてもらい、ステージに飾りました。

休憩後、利用者さん・子供達保護者の方と一緒にペタンク大会を行いました。

チームごとに分かれてのトーナメント戦。チーム毎、協力



しながら大変盛り上がりました。とても楽しい交流が出来ました。

夜の部では、オープニングとして利用者さんと職員で作成した達磨の目入れ式を行いました。

役員と理事長、園長、保護者会長さんを目入れをしてもりました。

また、利用者さん全員による歌の発表や職員の出し物として獅子舞の披露も行いました。

今回、利用者さんと職員が一緒に作成した達磨と獅子頭は、はりぼてという手法で行いま

した。

その後、山吹保育園の園児による可愛らしいダンス、太鼓グループとして今回は、豊丘太鼓をお願いし、子供と大人による迫力ある太鼓の発表、美翔連の踊りでステージを盛り上げて頂き、多くの方々と楽しいひと時を過ごすことができました。

地域の方々、ボランティアの皆様、出演団体の皆様の支えにより高森荘の夏祭りが盛大に行われましたことに感謝申し上げます。



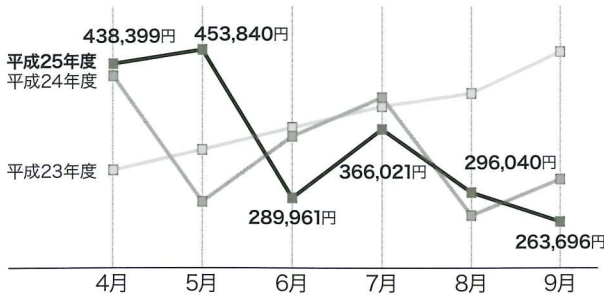
お世話になった皆さん、本当にありがとうございました。

- 高森中学校 5名
- 松川高校 3名
- 下農IAC 3名
- 岩崎製肉店 1名
- 高森町役場 13名

(敬称略・順不同)

生産活動の現状報告 (上半期)

作業収入



生産活動

今秋は、製函を中心に極端に仕事量が落ち込むことなく、推移している。毎日お世話になっている企業様はもちろん、以前何回か受注したことがある企業様からも仕事をいただいている。

特に、津具屋製菓様においては、新しい種類の箱が二種類発注された。一つは、輸出用の六角形のどら焼きの箱で、もう一つは、産地限定の名前を入れた化粧箱である。

生産活動の世界でも、時代の流行が反映されていることを感じざるをえない毎日である。

次の「梨太郎」という落語のお話では、独特の語り口調に会場の皆が引き込まれ、茶話会にも関わらず、手を止めて話しに聞き入ってしまう程でした。会場全体が笑いの渦に包まれる場面もあり、とても楽しい時間となりました。



「来年もまた来てほしい」という喜びの声を多く聞くことが出来ました。

お茶と美味しいお菓子を頂きながら、和やかで楽しい時間を過ごすことができました。

2013年6月~11月 行事

紙面の写真・氏名については、利用者、ご家族、職員の同意を得て掲載しております。

お願い

現在、清拭用タオルが不足しております。ご家庭で不要になった衣類等、ございましたら高森荘にお持ち下さい。ご協力お願いいたします。

実習・研修の受け入れ

- 8月28日~9月26日 / 学校法人コア学園 飯田コアカレッジ 1名
- 11月5日~11月15日 / 飯田養護学校 2名
- 11月14日・11月28日 / 飯田養護学校 1名



6/1 障害者スポーツ大会

利用者6名参加

6/5 行事食(焼肉)

6/26 双葉会交流会

7/5 北小学校音楽会

利用者8名参加



夏季火災避難訓練 7/29

夏祭り 8/8



民生児童委員交流会 8/22



地震総合防災訓練 9/4

高森中学校文化祭 9/27

利用者9名参加



山吹区町民運動会 10/13 中川ふれあい広場

利用者3名参加

利用者3名参加

利用者保護者交流会

10/22 感染症勉強会

鈴木敏美 歌謡ショー 11/7

利用者3名参加

高森まるごと収穫祭 11/7

利用者9名参加

12/1

11/29

11/21

通所者日帰り旅行

利用者15名参加

感染症勉強会



職員異動

〈退職〉

10月31日付
管理宿直
熊崎良七

〈採用〉

6月1日付
看護師
小倉ひろみ
調理員
米山智子

編集後記

今年は暑い日が続き、10月に入っても真夏日になるといふ所がいくつもありました。しかし、その暑さがいつの間にか寒さに変わり、気が付けば山々は赤や黄色に色づいており、気温だけでなく視覚でも秋を感じています。

さて、高森荘では利用者さんや職員もインフルエンザなどの感染症にかからないよう、手洗いなど予防対策に力を入れていきます。ウイルスに負けないためには、しっかりと睡眠をとる、バランスのとれた食事をとるようにしたいものです。

皆さんの明るい元氣な笑顔に負けないように私も日々過ごしていきたいです。

